

## 産経新聞社、積水ハウス、大阪ガスの3社による 「防災キッズ育成サポートプロジェクト」が 「ジャパン・レジリエンス・アワード2019」優秀賞を受賞

産経新聞社、積水ハウスと大阪ガスによる「防災キッズ育成サポートプロジェクト」が「ジャパン・レジリエンス・アワード2019」の優秀賞を受賞しました。この取り組みは3社によって構成された「震災の経験を次世代に」実行委員会により、親子向け防災減災体験学習プログラムとして2年間取り組んできたものです。

### 「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」について

本表彰は、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が主催する、次世代に向けた強靱化(レジリエンス)社会を構築するために、全国各地で展開されている強靱化(レジリエンス)に関する先進的な活動や取り組みを発掘、評価、表彰する制度。2014年11月に創設され、今回は100件以上の応募がありました。



### ■ 防災キッズ育成サポートプロジェクトについて

2017年にスタートした本プロジェクトは、産経新聞社、積水ハウス、大阪ガスの3社で「震災の経験を次世代に」実行委員会を組織し、「学ぶ、感じる、語り継ぐ」をテーマに、子どもたちが自ら防災・減災のあり方を考え、理解する「場」を創出し、日頃から災害への備えや対処を考え、身につけ、もしもの時に実践できる「防災キッズ」を育成支援することを目的に展開しているものです。

このプロジェクトは、新聞社、住宅会社、エネルギー会社それぞれの事業分野を生かした次世代教育プログラムを特徴としています。また、各社施設である積水ハウスの「住ムフムラボ」、大阪ガスの「ハグミュージアム」にて、防災・減災体験学習プログラム、フォーラムなどを開催。さらには、体験型ツアーとして、江戸時代から現在までの過去の大災害の記憶を学ぶプログラムを実施するとともに、新聞紙面を通じてプロジェクトの内容を発信しています。



体験学習

#### 【本件についてのお問合せ】

産経新聞大阪本社  
メディア営業局企画開発部  
(大阪) TEL 06-6633-9508

積水ハウス株式会社  
広報部  
(大阪) TEL 06-6440-3021  
(東京) TEL 03-5575-1740

大阪ガス株式会社  
近畿圏部 ソーシャルデザイン室  
(大阪) TEL 06-6205-4545

## ■防災キッズ育成サポートプロジェクトについて

本プロジェクトは「学ぶ、感じる、語り継ぐ」をテーマに「防災&減災体験学習プログラム」を通して、子どもたち自身が防災・減災のための行動のあり方を考え、理解する「場」を創出し、日頃から災害への備えや対処を考え、身につけ、もしもの時に実践できる防災キッズを育成・支援することを目的としています。

### 『震災の経験を次世代に』実行委員会

#### 防災キッズ育成サポートプロジェクト



「広報・情報伝達」からのアプローチ



「住まい・暮らし」からのアプローチ



「都市インフラ」からのアプローチ

#### ①「震災経験を次世代に」実行委員会を設置

産経新聞社、積水ハウス、大阪ガスの3社の構成による「震災経験を次世代に」実行委員会を設置し、この実行委員会を主催、企画運営者としました。

より多角的に、より立体的に、より効果的な取り組みを実施するために、それぞれの企業の特徴(強み)を活かした連携体制を構築しました。

#### ②防災キッズ育成のための多彩なプログラムを創出

災害に対する正しい理解や状況に応じた判断力、行動力を養うため、体を動かし、自ら考えることのできる実践的なプログラムを展開しています。

#### ③次世代につなぐための防災&減災フォーラムを開催

次世代を担う子どもたちが体験した各プログラムを通じて、育まれた「生きる力」を伝え、これからの防災教育を考えるフォーラムを開催。子どもと大人が一緒になって、震災・災害についての意識を共有し、行動できるための知識、考え方を創出するためのフォーラムです。

#### ④「防災キッズ育成・サポートプロジェクト」の成果を周知させる広報活動

より多くの人に活動を知っていただくために、本プロジェクトで実施された各プログラムおよびフォーラムについて、産経新聞紙面を活用した告知、特集を掲載しています。紙面を通じて「防災キッズ育成・サポートプロジェクト」の意義、内容の理解深化を図っています。近畿2府4県の産経新聞読者に波及しており、将来的には全国各地で「防災キッズ」の育成・支援が可能です。

## ■プロジェクトの活動内容とねらい

### STEP 1

#### 【体験学習】

「防災キッズ育成サポートプロジェクト」とは何か？その趣旨や意義、内容の理解を深めるステップです。

日常生活の中でできる災害への備えや衣食住という暮らしに即した防災・減災ノウハウを学ぶためのワークショップや参加型セミナーを通じて学びます。



### STEP 2

#### 【子どもたちの防災&減災体験学習ツアー】

江戸時代の安政大地震、大津波などの歴史を伝える大阪市内の「両川口津波記念碑」や和歌山の「稲むらの火の館」や周辺地域、阪神淡路大震災の神戸「人と防災未来センター」の親子とツアーを実施。

子どもたちが「もしもの時に」を考え、何をしなくてはならないかを学ぶための体験学習ツアー。学習現場で、災害を体験した先人たちはその時何に苦しみ、どう対処していたかを「見て、ふれて、体験」し、自分たちができることを考え、学び身に付けます。



### STEP 3

#### 【次世代につなぐ防災&減災フォーラム】

東日本大震災の「釜石の奇跡」に代表される「津波てんでんこ」の意義をはじめ災害への備えを専門家とともに親子で学ぶ、子どもと大人が一緒になって震災・災害について取り組むためのフォーラムです。

子どもたちの防災&減災体験学習ツアー報告会、専門家による講演会、パネルディスカッションなどを展開。子どもたちの体験学習から、大人たちが防災力・減災力を考え、次世代(子どもたち)に伝える意義の理解を広めます。



## ■本活動で活用した施設の紹介(STEP1・3会場)

### 【住ムフムラボ】

#### 住まいと暮らしの情報発信・研究開発の場 ～ オープンイノベーション拠点

一般生活者に広く開かれた施設として積水ハウス総合住宅研究所で企画運営。住まいと暮らしの多彩な展示や、3000冊を超える書籍を備えたブックカフェ、そしてイベント・セミナーも随時開催し「感性を磨き」「私らしさを発見」できるとして好評を得ています。

そして、あらゆる世代や価値観の人々が集う立地を活かした研究アンケートや住ムフムラボ会員(研究メンバー)とのワークショップ等による生活者の評価や意見を商品や生活提案の研究開発に活用しています。

私たちにとって「住むコト」は365日のテーマ。生活者の興味やニーズの変化に伴い住まいが担う価値の拡大を踏まえ、住まい手の暮らしの質を高めると同時に、先進技術を活用した研究開発もさらに進め様々な社会課題の解決を目指しています。



大阪市北区大深町 3-1  
グランフロント大阪 北館 4階  
TEL / 06-6485-7590  
開館時間 / 10:00 ~ 19:00 (LO18:30)  
休館 / 水曜日・年末年始

生きるコトを、住むコトに。

**SUMUFUMULAB**  
【住ムフムラボ】

### 【ハグミュージアム】

#### 食と住まいの情報発信拠点

hu+g MUSEUM(ハグミュージアム)は、「食と住まいの情報発信拠点」として大阪ガス発祥の地に2015年1月にオープンしました。

『人とガスが出会うと、ぬくもりが生まれる。未来が生まれる。』をコンセプトに、ガスでかなえる豊かな暮らしを見て、触れて、味わって、体感できるショールームです。

最新のガス機器・リフォームの展示やご提案、食と住まいに関する様々な情報発信を行っています。

1階フロアでは地球環境にやさしい天然ガスの安全性、環境性、将来性を学べ、4階フロアには最大100名で調理実習ができるキッチンスタジオがあり、小学校の校外学習施設としてもご活用いただいております。



大阪市西区千代崎3丁目南2番59号  
TEL / 06-6586-3789  
開館時間 / 10:00 ~ 18:00 (1階~4階)  
休館 / 水曜日(祝日は開館)・年末年始・夏期休館  
※5階(業務用厨房フロア)は、完全予約制

**hu+g MUSEUM**  
ハグミュージアム